

有限会社みやもとテント

一般型

設備投資

安全で効率的な積み降ろし作業が出来る幌シートの製造・販売

幌車では不可能と云われた継ぎ手部分のシームレス化を実現し、懐が無く溶着幅が広く正確な加工が出来る懸下式ウェルダ―と立体物加工用ウェルダ―の導入により、新型開閉式幌など防水性能に飛んだ幌製品の製造に加え、土木関連資材等、新事業への販促を図る。

Q 取組の背景

Background of efforts

弊社は、香川県内のみならず近隣県や遠く関東などへも車両関連の幌シートなどの製造・販売を行っている。オーダーメイドの幌や、特装車向けに高機能を持つシートカバー類を開発・製造・販売しており、その独自性を有する製品作りは、弊社代表取締役が全国技能士会連合会より、平成19年に全国で二人目の帆布製品製造ものづくりマイスターに認定され、また平成24年には、帆布製品製造の技能向上に努めて来た事などにより香川県知事表彰を受けた。

代表取締役社長他が特許を持つ、巻き上げ式リア（後部）シートを活かした、開口高が十分に取れるリアシートの開発・製造と、幌本体の開発を依頼されたことが、本事業の糸口であった。リアシートに関しては既に販売実績があるので、ドイツからの輸入品に代わる開口部の広いシートは既に完成に至り、他の国内製品をも凌駕して採用に至っている。

しかし、本体及びフロントの開発に際し提示されたのが、幌骨が前後スライド式のため、幌を閉める際、「フロントと本体の接合部分（縫製部分）にテンションがかかることにより、劣化が早まるのではないか。出来れば溶着加工で漏水の無い製品にして欲しい」との要請であった。

目 事業の実施内容

Implementation content

一般的な幌のフロントと本体の接合は、ほとんどミシン縫製にて製造されている。この接合加工をシームレスに行うためには、高周波溶着か熱溶着しか方法がないのが現状である。弊社の既存の製造機械では大きなR（弧）加工なら可能だが、小さな径の焼付や、ほぼ直角のコーナー加工は養殖用水槽加工等立体物専門の加工業者に委託せざるを得ない。しかし、幌シート全体の販売価格を要望に叶うように抑えるためには、

全工程の内製化が不可欠となる。さらに、幌車及び、立体加工物の継手部分のシームレス化は、雨水等の漏水を防ぐためにも不可欠で、多くの場合、ミシン縫製に頼っているのが現状ではあるが、水槽の加工と同様、漏水の無い製品加工を施すためには、懐の無い懸架式ウェルダ―と立体物加工用ウェルダ―が必要となる。よって、それらの加工機を導入した。



【図1】懐の広い、細かい加工に適したウェルダ―加工機

【図2】導入機の加工テスト風景

事業の成果

Achievement

導入した加工機のおかげで、完璧な防水加工を施すことが可能となり、精密機械のカヴァや・紙製品カヴァなど絶対に漏水があってはならない製品の保護が完璧に行えるようになった。また、加工面積を倍の設定にすることができ、製造時間の大幅な短縮が可能となった。さらに、立体物加工用のハイブリッドウェルダ―の導入で、寸法安定性が高く縮みの少ない堅牢な立体防水加工も加味され、収益性も大幅に改善された。その他、地盤改良用生コン攪拌サイロ（試験運用）、シームレス加工を施した幌ウィング、船舶用エンジンカヴァ、高所作業車用電装部品カヴァなども施工可能となった。

COMPANY PROFILE



有限会社みやもとテント

所在地 〒761-0113
香川県高松市屋島西町2366-46

TEL 087-841-7722

設立 1954年1月

代表者 宮本 好量

業種 帆布製品製造業

従業員数 4名

事業内容

大正元年の創業。当初は金刀比羅宮への参拝のために訪れた船主らから、船舶用の帆やカバーの製作を請け負ったのが始まり。輸送手段が、モーターリゼーションへと変化する流れに合わせて、車両関連製品への加工へと移行していった。現在は、車両関連（幌・シート等）を中心に、船舶関連用品から建築・土木関連製品・店舗や工場等のテント・産業資材迄手掛けている。最近は流動物の輸送用品など、液体やエア―漏れの無い製品の加工も、補助金に依る設備投資のお陰で徐々にではあるが増えてきている。



代表取締役 宮本 好量

「独自性を重んじる卓越した技術と新設備を掛け合わせ、新しい展開を創造します」。

弊社は、多くのボデー架装業者の依頼により、オーダーメイドの幌や、特装車向けに高機能を持つシートカバー類を開発・製造・販売により、確かな基盤を築いています。全国技能士会連合会より、平成19年に全国で二人目の帆布製品製造ものづくりマイスターに認定いただいたほか、わたしを含め3人の厚生労働大臣認定の1級技能士を擁しており、独自性を担保しながら、ユーザーサイドに立ったものづくりを、社員一丸となって行っています。

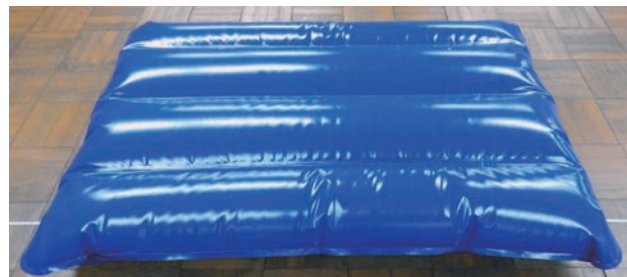
ここ数年の設備投資により、加工精度が上がり、合織帆布を使用した細かな製品の製造も可能となりました。また、製造方法の見直しにより、ミシン縫製に依存しない立体物の加工も可能となり、溶着技術の向上に伴い、新製品・新商品の開発も視野に入ってきました。他社のやらない、やれない加工方法に磨きを掛け、防水帆布の特徴を生かしたものづくりに挑戦してまいります。



【図3】弊社の製品の施工が完了した状態の一例



【図4】流体物攪拌機膜体



【図5】流体物輸送用膜体試作品

今後の展望

Future prospects

懸架式ハイブリッド高周波ウェルダ―の導入によって、特装車の幌に限らず、あらゆる直線幅継加工が精確に行えることとなり、製造のスピードアップが計られた。それにより、トラックディーラー・トラックボデーメーカー・運送会社などへの効率的な納品が可能となる。

また、漏水の心配がほぼ無くなったことで、ディーラーから末端ユーザーまで、安心・安全な製品の供給が可能となった。

次に、幅継・立体加工用ハイブリッド高周波ウェルダ―の導入によって、立体物の製造に弾みが付いた。当初は、漁業関連業者を主なターゲットにしていたが、細かな立体加工が可能となったことで、機械カヴァ・船舶関連の保護カヴァ類の加工にも漏水が起きないことのメリットを最大限に生かし、拡販が可能になった。液体物流輸送への展開は、その一つである。また、流体物攪拌機膜体として、土木工事への活用も現実のものとなった。いずれも、現場の困りごとを解決する役割を担っている。弊社の製造技術が、社会の役に立ち、広がっていくことを願っている。